

～東日本大震災、初動の記録～
災害時ノウハウ集
「いざというときに役に立つ88の工夫とノウハウ」
について

3月11日14時46分に発生した東日本大震災は、我が国の観測史上最大の Mw（モーメントマグニチュード）9.0 を記録し、岩手県から千葉県までの8県におよぶ広域で震度6弱以上の強い地震動が発生し、東北日本の太平洋側で10メートルを超す大津波が襲来し561km²もの面積が強大な津波のエネルギーで破壊され、東京電力福島第一原子力発電所の事故にともなう大規模な避難が行われるなど、我々が経験したことのない大規模かつ複合的な大災害となった。

国土交通省では、発災直後の14時46分に非常災害対策本部を立ち上げ、15時15分に緊急災害対策本部とし大畠国土交通大臣の指揮の下、6万人組織の総力を挙げて災害対応に取り組んできた。地震発生当初、広大な浸水区域と膨大な瓦礫、寸断された交通網、停電や通信途絶、足りない燃料など数多くの困難の中を各部局や現場で様々工夫をしながら、人命救助、道路啓開、航路啓開、被災自治体支援、被災者救援、救援物質の輸送、応急排水、応急復旧、物流の確保、仮設住宅の建設などを実施してきた。また、全国の職員が TEC-FORCE として被災地に駆けつけ、専門性を活かした支援活動を展開した。

本災害時ノウハウ集は、東日本大震災初動の応急対応の中で、災害対応を円滑に遂行するために各部局や現場で行われた様々な工夫やノウハウについて主なものを取りまとめたものである。発災後5ヶ月を経た現時点で、まだ東京電力福島第一原子力発電所対応が続いており、また本格的な災害復旧・復興もこれからであるが、初動時の対応の記録として、なるべく記憶の新しいうちに取りまとめることとした。今後、復旧・復興が進む中で、更なる工夫もなされることと思われるが、それらについては必要に応じ追加し補訂してまいりたい。このノウハウ集が今後の災害において役立ち、初動の災害対応に万全が期されることを期待するものである。

平成23年8月24日
国土交通省緊急災害対策本部事務局